

表 令和6年1月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第1～9号	1日、5日、8日、12 日、15日、19日、22日、 26日、29日 16時00分	噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴 火、噴煙、大きな噴石飛散、火映の状況。 昭和火口では噴火及び火映は観測されて いない。 現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放 出量は、9日は3500 t/day で非常に多い 状態。25日は2200 t/day で多い状態。 火山性地震、微動の発生状況。 GNSS 連続観測では、島内の一部の基線で 2023年1月頃から山体膨張とみられるわ ずかな伸びが認められたが、4月頃から 停滞。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟 む基線では、長期にわたり地下深部の膨 張を示す緩やかな伸びがみられる。始良 カルデラ地下のマグマ蓄積の状況。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、 降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと) に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第1～9号	1日、5日、8日、12 日、15日、19日、22日、 26日、29日 16時00分	新岳の噴煙の状況。火山ガス（二酸化硫 黄）の放出量は、少ない状態。古岳の噴煙 は観測されず。 古岳付近の浅いところで火山性地震が概 ね多い状態。新岳付近の火山性地震は概 ね少ない状態。GNSS 連続観測で、2023年 6月下旬頃からの古岳付近の膨張を示唆 する変動は11月頃から停滞。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第1～9号	1日、5日、8日、12 日、15日、19日、22日、 26日、29日 16時00分	火山性地震は、昨年7月下旬以降、概ね少 ない状態で経過。山体の西側での膨張を 示すと考えられる地殻変動は、11月頃か ら停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は 11月下旬以降、500トン/日前後で推移。
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	23日 15時00分	23日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫 黄）の放出量2000t/day と多い状態。 GNSS 連続観測で、2023年12月頃から草 千里を挟む基線及び広域の基線において 伸びの傾向が認められる。 中岳第一火口から概ね1kmの範囲に影響 を及ぼす噴火が発生する可能性あり。噴 火警戒レベル1から2に引上げ。
		解説情報 第1～5号	23日 15時45分 24日～26日、29日 16時00分	23日、25日、26日、29日の現地調査で、 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量がそれぞ れ2000、1300、1700、1600t/day と多い 状態。 GNSS 連続観測で、2023年12月頃から草 千里を挟む基線及び広域の基線において 伸びの傾向が認められ、深部のマグマだ まりへのマグマの蓄積が進行していると 考えられる。19日から夜間に高感度の監 視カメラで火映を観測。 中岳西山腹観測点の1分間平均振幅は特 段の変化はなく、火山性地震は少なく、孤 立型微動は多い状態。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第1～5号	1日、8日、15日、22 日、29日 16時00分	火山性地震は概ね多い状態。火山性微動 はなし。噴煙、火映、地殻変動等の火山活 動の状況。

令和 6 年 1 月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 1～2 号	1 日、8 日 16 時 00 分	噴火活動が継続。爆発はなし。大きな噴石の飛散、噴煙、火映の状況。集落での降灰の状況。火山性地震、微動の発生状況。GNSS では、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加を示す変動は認められない。
		降灰予報(速報)	1 日 15 時 22 分 2 日 01 時 42 分 08 時 45 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	1 日 15 時 32 分 2 日 01 時 53 分、03 時 18 分、07 時 30 分、08 時 55 分、09 時 29 分、15 時 24 分 9 日 23 時 20 分 10 日 03 時 15 分 03 時 58 分	噴火発生から 6 時間先まで（1 時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	火口周辺警報	14 日 00 時 55 分	御岳火口で 00:22 に爆発が発生、大きな噴石が火口中心から 1 km 以上に達した。御岳火口中心から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性。噴火警戒レベル 3 に引上げ。
		解説情報 第 3～8 号	14 日 01 時 40 分 11 時 00 分 15 日～18 日 16 時 00 分	御岳火口で 14 日 00:22 に爆発が発生し、大きな噴石が火口中心から北方向に約 1.1km、南方向に約 1 km まで飛散。その後、爆発の発生や噴煙量の増加などは認められない。火山性地震は少ない状態。GNSS 連続観測では、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加と推定される変動は認められない。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	19 日 11 時 00 分	15 日以降、1 km 付近まで飛散する大きな噴石は観測されていない。他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化はみられていない。火口中心から 1 km を超える範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられる。噴火警戒レベル 2 に引下げ。
		解説情報 第 9～11 号	19 日 11 時 10 分 22 日、29 日 16 時 00 分	噴火活動は継続。爆発はなし。大きな噴石の飛散、噴煙、火映の状況。集落での降灰の状況。火山性地震、微動の発生状況。GNSS では、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加を示す変動は認められない。
北海道駒ヶ岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、 活火山であることに留意)	解説情報 第 1 号	12 日 14 時 00 分	昨年 12 月以降、山頂火口原浅部で低周波地震を主とした地震活動が継続し、12 月の回数 31 回（山麓の観測点）。1 月は 11 日までに 15 回（速報値）。各火口の噴気活動は低調だが、昭和 4 年火口のごく弱い噴気の観測日数が 2021 年秋以降増加する傾向。GNSS 連続観測では、2022 年頃から山頂火口原浅部の膨張と考えられるわずかな変化が一部の基線で認められる。

注 1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注 2) 浅間山、阿蘇山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。阿蘇山は 23 日 17 時に発表を開始した。